

～溢れる歌声と鮮やかな音色のコントラスト～

ベイサイド スプリング・コンサート

2014年3月22日（土）

横浜美術館レクチャーホール



Bayside Spring Concert

PROGRAM



Program

マタイ受難曲より アリア「憐れみ給え、わが神よ」 J.S.バッハ

J.S.Bach : Matthäus-Passion Nr.39 Arie 「Erbarme dich, mein Gott」

無伴奏パルティータ第3番より 「プレリュード」 「ガボット アン ロンドー」 J.S.バッハ

J.S.Bach : Violin Partita No.3 「Preludio」 「Gavotte en Rondeau」

ヴァイオリンとピアノの為のソナタ 第1番 ニ短調 サン＝サーンス

SAINT-SAENS : Violin Sonata No.1 in D Major

シャコンヌ T.A.ヴィターリ

T.A.Vitali : chaconne

歌曲集「夏の夜」作品7 L.H.ベルリオーズ

L.H.Berlioz : Les nuits d'été Op.7



曲目解説



マタイ受難曲より アリア「憐れみ給え、わが神よ」 J.S.Bach

マタイ受難曲は演奏に3時間近くかかる大曲であり、音楽史上に燦然と輝く名曲です。言葉で言い表すことができないほど美しく、壮大で、精密で、感動的な音楽です。

そのマタイ受難曲の中でも私が最も好きな曲が、第47曲アルト・アリア「憐れみたまえ、わが神よ」です。

かくも美しく、体中を包み込みながら奥底まで浸透してくるソロヴァイオリンの調べ。

そして、哀愁きわまりなく、たとえ意味が分からなくても、涙があふれ出そうになるアルトの歌。これはもうこの世のものとは思えません。(hmd)

無伴奏パルティータ第3番より「プレリュード」「ガボット アン ロンドー」 J.S.Bach

♪ プレリュード：小気味よい弓さばきで続く16部音符は、まるで絨毯の織物のようにメロディが編み込まれ、そのメロディを追っていく内にでてくる和音が、最後の劇的な山になります。

♪ ガボット アン ロンドーはとても良く知られた一曲。結婚式やパーティで演奏されたり、TV-CM等でもよく流れます。可愛い曲ですが、しっかりとした重音テクニックが求められます。(Miki)

ヴァイオリンとピアノの為のソナタ 第1番 二短調 C. Ca. Saint-Saëns

第二章のドキドキするような盛り上がりは、第一楽章のAgitatoで始まります。クルクルと拍子の変わる部分があってこそその効果です。

何度も弾いてみて感じるのは、この曲は全曲聴いて始めて「美味しさ」のわかる曲なんだということです。(Miki)

シャコンヌ T. A. Vitali

シャコンヌとは、一つのテーマを16のヴァリエーションに展開させる曲の形式名です。(あの有名なシャコンヌはバッハの無伴奏パルティータ第2番の中にあります) 演奏するときにはいつも感じるのですが、「世界の車窓から」というTV番組のようにいろいろな景色が次々と現れ、叙情的な光景が想い浮かびます。静から動～活～隠～激～壮大など、聴く人が自由に感じ取ってもらえれば嬉しく思います。(Miki)

歌曲集「夏の夜」作品7 L. H. Berlioz

この歌曲集の詩は、ベルリオーズの親友であり詩人のテオフィール・ゴーチエの書いた詩集「死の喜劇」の中から選ばれ、原曲はピアノとテノールの為に1840年から1841年の間に作曲されたものである。後にベルリオーズはオーケストラ伴奏に編曲しています。

六つの曲の冒頭「ヴィラネル」は春を喜ぶ恋人達と自然や動物を歌った軽快な曲。二曲目「薔薇の精」は手折られたバラが少女の胸に付けられ舞踏会に一緒に行くと言う内容。三曲目は「哀歌」で妻を失った漁師の悲しみの歌。四曲目の「不在」は「貴方の居ないこの世は何と侘しいものか、どうか帰って来て」と訴える歌。五曲目は墓地にて愛する人の墓の側にあるイチイの木に停まった白い鳩が悲しそうに歌っているという内容で、今は亡き愛する人を想う歌。六曲目は想像の島に船で旅をするという夢と冒険に溢れた歌。

ベルリオーズにとって1840年は、1833年に結婚したイギリス人の妻であり女優でもあったハリエットとの愛の生活が精神的にも肉体的にも徐々に失われて行った時期にあたり、この歌曲集は、彼の私生活が重なって描かれていると言えます。著名で華やかなシェークスピア劇の花形女優であったハリエットは結婚後舞台を降り、言葉の通じないパリの社交界に馴染めず病気がちで閉じこもり孤立する中で、ベルリオーズは彼女を救うことには至らなかった。結婚当時の情熱的な生活は消え失せ彼女に対する愛も憐れみに変わって行く中で、ベルリオーズ自身の心もハリエットから次第に遠ざかって行ったのです。1844年にハリエットと別れ、ハリエットは1855年に病死、ソプラノ歌手マリー・プレシオとの再婚に至り、ベルリオーズは再び新しい情熱を見つける事になります。タイトル「夏の夜」はハリエットがシェークスピア劇の女優であった事から、喜劇「真夏の夜の夢」と重ねて付けた題名と言われています。(Rie)

Profile

ソプラノ 萩原理恵 Haghiwara Rie

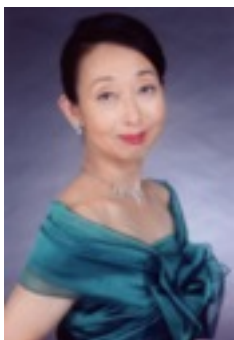


東京芸術大学卒業後イタリアのミラノに留学、作曲家のソレジーナ氏に師事イタリアオペラレパートリーを習得する。北イタリアの都市、ミラノ、マントヴァ、ベルガモ、プレーシャに於いてソレジーナ氏と共に演奏活動を行う。のち、ザルツブルグのモーツアルテウム音楽院にて、ドイツリートをシルハウスキー氏、ドイツオペラをエッガー女史に師事する。1981年にアメリカに移りメトロポリタン歌劇場のバス歌手タヨー氏の招きで特別奨学生としてシンシナチ大学大学院に入学。アメリカに於いては、多くのオペラ、オラトリオ、交響曲及び室内楽のソロイストとして活躍、アメリカンオペラオーディションのファイナリストに選ばれる。ニューヨークリンカンセンターのアリス・トーリーホールではニューヨークプルミエのアール・キム氏の作品をエセックスカルテットと共に上演する。マラーバージョンの第九のソロのCD作成ではグラミー賞受賞する。マサチューセッツ大学声楽講師、エール大学助手、アメリカンピアノソサエティー会員、弦楽器のピアノ伴奏、声楽コレペティトアーも兼ね、声楽家以外の活動も積極的に行う。2006年から演奏活動の場を日本に移し、06年7年連続オペラシチーコンサートと紀尾井ホールコンサートに出演。現在アメリカと日本に在住する。愛知県立芸術大学講師、昭和音楽大学講師。

ヴァイオリン 御木マドカ Miki Madoka



3歳の時ラジオから流れるヴァイオリンの音色が大好きになり習い始める。小学3年生で、山口県学生音楽コンクール小学生の部第3位、小学6年生で同コンクール第1位。中学2年生で全日本学生音楽コンクール西部大会第2位、東京芸術大学音楽学部付属高校を経て同大学ヴァイオリン専攻を卒業。ザルツブルグモーツアルテウム音楽院にてシャンドール・ベグ氏に学ぶ。帰国後、山口・東京でリサイタルを開催。その後も、出身地である山口周南市の「御木マドカふるさとコンサート」をはじめ、全国各地で定期的に演奏会を開き、その模様はテレビ朝日、千葉テレビ、山口放送などで放送されている。2002年「東京駅ブレイクステーションライブ」「幕張ベイタウン・コアオープン記念コンサート」に出演。千葉市美浜区役所主催の「夕焼けコンサート」に出演。2007年千葉市美浜文化会館ホールオープニングコンサートに出演。Kenクラシックライブハウスにてリサイタルを開催。同文化ホールにてベイタウンオーケストラと「チャイコフスキーヴァイオリン協奏曲」を共演。2009年弦楽オーケストラと「パッハ ヴァイオリン協奏曲」「ヴィヴァルディ 四季」などを弾き振りし好評を得る。2010年名古屋白川ホールにてリサイタル、桑原由紀枝氏とのデュオでの活動の他、琴や邦楽とのアンサンブルでのコンサートも好評を得ている。2014年2月「おんきょう室内管弦楽団」コンミスとして「発足記念コンサート」にて弾き振りし、大好評を得た。



ピアノ 桑原由喜枝 Kuwahara Yukie

東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。小島久里、故堀江孝子、故水谷達夫の各氏に師事。大学卒業後、茨城大学教育学部音楽科及び茨城県立水戸第三高等学校音楽科にて講師として勤める傍ら演奏活動を行う。芸大同期の声楽科卒業生有志によるアカンサス48コンサートの伴奏者を2001年から毎年務める等、声楽、室内楽、合唱の伴奏を中心に活動が続けている。



Bayside Spring Concert